

さいたま市長 4月定例記者会見

平成28年4月21日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の共同通信さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 共同通信 よろしくお願います。4月の幹事社を務めます共同通信です。
それでは、本日の記者会見内容につきまして市長からご説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
まずは、このたびの平成28年熊本地震によりまして亡くなられた方々のご冥福をお祈りしたいと思います。さらに、被災された方、余震が続く中で不安な避難所生活を余儀なくされている方には心よりお見舞いを申し上げたいと思います。一日も早い復興が行われるようさいたま市としてもできる限りの支援をしてみたいと考えております。

これまで人的支援として保健師、下水道部等の技術的な職員の派遣、またブルーシート、アルファ米、さいたまの水などの支援物資を送り、既に現地に到着しているということでもあります。さらに、現在避難所運営や支援物資の分配作業に当たるための職員を派遣するための準備を行っております。今後とも被災地の状況を踏まえ、速やかで的確な対応を行ってまいります。

それでは、議題の説明に移らせていただきます。

市長発表：議題1「さいたまスポーツフェスティバルを開催します！」

最初の議題でありますけれども、「さいたまスポーツフェスティバル2016を開催します！」についてでございます。

子供から高齢者の方々まで幅広く楽しめるスポーツフェスティバルをゴールデンウィークの前半に開催いたします。2020年東京オリンピックでバスケットボールの会場となるさいたまスーパーアリーナで行ってまい

ります。

まず初めに、開催の目的でございます。本イベントは、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の普及啓発、またオリンピック・パラリンピック競技を中心としたスポーツ体験を通じまして、スポーツの楽しさを伝えることを目的として開催いたします。昨年は株式会社さいたまアリーナの15周年記念として開催いたしましたけれども、ことしはさいたま市も主催という立場で参加をいたします。昨年のもことから内容をオリンピック・パラリンピックの周知に配慮したものにレベルアップいたしまして、豊富なアトラクションを用意させていただきました。ぜひご家族でお越しいただき、4年後のオリンピック会場を肌で感じていただきたいと思っております。

概要について、まず日程です。ゴールデンウィーク前半の4月29日から5月1日までの3日間でございます。時間は10時から18時まででございます。場所はさいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナでございます。一部のアトラクションを除いて入場料は無料になっております。私も4月29日、初日の午後に参加をさせていただく予定であります。

ご協力いただく企業等でございますが、主催は先ほど申し上げましたさいたま市と株式会社さいたまアリーナ、それから共催として埼玉県、後援がさいたま市教育委員会、協力としてさいたまスポーツコミッション、また一般社団法人関東車椅子バスケットボール連盟、埼玉県ライフル射撃協会など、こういった関係団体の皆さん、また企業の皆さんにご協力、またご支援をいただいております。

また、内容についてでございますけれども、内容はここに書かれている6つのプログラムを用意しております。

それでは、この6つのプログラムについて、一部でありますけれども、ご紹介したいと思います。最初に、このラグビーについてですが、ラグビーはストリートラグビーを子供たちに体験していただきます。今回はストリートラグビーということで、タックルではなくて、ボールを持った人にタッチをする鬼ごっこのような安全な形で体験してもらおうというものであります。ボールを持って走る楽しさを体感してほしいと思っております。

2つ目がテニスでございます。キッズ向けにテニスの楽しさをわかりや

すくしたアレンジしたプログラムを用意しております。ぜひ親子で参加いただきまして、楽しみながらコミュニケーションを深めていただきたいと思います。

続きまして、ボルダリングでございます。現在このボルダリングは2020年東京オリンピックでの追加種目候補となっております。今回のボルダリングはミニチュア版のものでありまして、小さなお子さんにとっては十分達成感を味わえるアトラクションになると思います。好奇心旺盛なお子さんにぴったりのアトラクションになっておりますので、ぜひお試しをいただきたいと思います。

続きまして、スケートボードでございます。スケートボードは、このボードとヘルメット、プロテクターの無料レンタルも用意しております。スケートボードの経験のないお子さんでも安心して参加していただけるようになっております。

そして、次はセパタクロウであります。これは、ダイナミックなアタックから、空中の格闘技とも言われている種目でありまして、足で行うバレーボールとも言われております。アタックを打つ人のほかにサーブを打つ人、トスを上げる人というふうに役割がいろいろございます。足のバレーボールをぜひこの機会に体験してみたいはいかがでしょうか。

続いては、ブラインドサッカーでございます。ブラインドサッカーは、視覚に障害のあるなしに関係なく、サッカーの初心者でも楽しめるスポーツでございます。さいたま市でも一昨年、幹部研修でこのブラインドサッカーを市の幹部の職員に体験してもらいました。このブラインドサッカーは、コミュニケーション能力を高めたりすることもできますし、いろいろ信頼関係を構築したりするというようなこともあって、今いろいろな企業などでも研修の一環で取り上げられているとも聞いております。ぜひ多くの方々にこのブラインドサッカーを体験していただきたいと思います。ブラインドサッカーについては5月1日のみの開催であります。

次は、車椅子バスケットボールの体験でございます。これは4月29日と30日の2日間で実施する予定であります。車椅子の操作とボールコントロールを両手だけで行うのは、最初は戸惑いがあるかと思いますが、通常バスケットとはまた違う楽しみ方ができるだろうと思います。

ぜひ体験をしていただきたいと思います。

そして、バスケットボールでございますけれども、今回は3人制のバスケットボールを開催いたします。2020年の東京オリンピックではさいたまスーパーアリーナがこのバスケットボールの競技会場になります。今回はこのバスケットボールの体験ということだけではなく、小学生の男女による大会も開催されます。小学生たちの熱い試合をぜひご覧いただきたいと思ひます。

最後に、本市が出展するブースについてご説明をさせていただきます。まず初めに、オリンピック・パラリンピック関係のブースであります。こちらのブースは埼玉県の協力をいただきまして、1964年当時の貴重な記念品がございます。

ご案内のとおり、1964年の東京オリンピックの際には大宮公園サッカー場、今のNACK5スタジアムがサッカーのオリンピックの会場にもなっておりました。また、聖火（リレーの通過が上尾から旧中山道を通って大宮駅前、浦和に来て）、そして蕨につないでいくというコースでありましたけれども、こういった1964年当時の記念品が幾つか残っておりますので、それを見ていただくことで、当時のオリンピックの状況、それからまた新たに2020年に行われる東京オリンピックへの夢、期待を膨らませていただければと思ひます。

次は、主なブースの紹介ということで、それ以外にもツール・ド・フランスさいたまクリテリウムのブースでは、2015年の写真展示のほか表彰台などのフォトスポットも展示させていただきます。また、自転車の試乗会なども実施いたします。

また、このマラソンのブースでございますけれども、これは昨年のものでございますけれども、私もここに入らせていただいて、ポスターと同じ格好をして撮らせていただきました。ことしは正面の写真になりますけれども、こういった形でポスターと同じような格好をしていただきますと、こういった写真が撮れるということになります。

さいたま国際マラソンのブースでは、5月16日月曜日から市民優先枠の募集を開始いたします。そういったことから、さいたま国際マラソンのPRとして、このポスターと同じ背景でモデルになって撮影ができる、

このフォトスポットを展示してPRしていきたいと考えております。以上がスポーツフェスティバル2016の概要でございます。

2020年の東京オリンピックでは、さいたまスーパーアリーナが、先ほども申し上げましたけれども、バスケットボールのメイン会場になりますので、改めて市民の皆様はそのことを知っていただくとともに、また誇りに思っていただければと思います。

また、今回の機会を通じまして、ご家族でこの会場となりますさいたまスーパーアリーナにお越しただいて、大いにスポーツを楽しんでいただきたいと思っております。そして、将来またもしかしたら4年後、お越しただいた皆さんの中から、また子供たちの中からオリンピック・パラリンピックの代表選手が出てくることも期待をしたいと思います。

市長発表：議題2「さいたま市国際スポーツタウン構想を策定しました」

それでは、2つ目の発表でございます。2つ目は、「さいたま市国際スポーツタウン構想を策定しました」であります。

まず、この構想の位置づけについてご説明をしたいと思います。国際スポーツタウン構想は、平成25年に打ち出しました「さいたま市成長戦略」7つのプロジェクトの一つであります「スポーツ観光・産業都市戦略」の中の一つとして位置づけております。本構想は、さいたま市が東日本の中枢都市として成長発展をし、市民一人ひとりが幸せを実感でき、また市民や企業から選ばれる都市を目指す、この成長戦略の一翼を担っていくというものであります。

本構想は、スポーツ振興まちづくり条例及び同計画に基づきまして、「スポーツのまち さいたま」をさらに発展させまして、そして本構想を実現することによって、さらに選ばれる都市さいたま市を実現をしようという狙いがあります。

次に、構想の背景と目的であります。これまでさいたま市はスポーツを活用してまちづくりを進めていこうということで、平成22年にさいたま市スポーツ振興まちづくり条例を制定しました。そして、翌年の平成23年にスポーツ振興まちづくり計画をつくらせていただきまして、そして健康

で活力ある「スポーツのまち さいたま」の実現を目指しております。そして、平成23年10月にスポーツによります地域経済活性化をまさに推進するエンジンとしてのさいたまスポーツコミッションを、全国で初めてのスポーツコミッションでありましたけれども、立ち上げました。そして、このスポーツコミッションが主導しまして、大きな国際大会の誘致もこれまで行うことができました。

実績としましては、2002年FIFAワールドカップ日韓大会や（バスケットボールの世界選手権）を初めとしまして、スポーツコミッションができてからは、FIFA U20女子ワールドカップジャパン、さいたまシティカップ、ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム、さいたま国際マラソンなど、こういった実績をこれまでさいたま市としては挙げてきたわけですが、さらに2020年に東京オリンピック・パラリンピックの競技会場としてサッカーとバスケットボールの会場がさいたま市に決定しております。これからさらにスポーツを大いに活用して、これからさいたま市が抱えるさまざまな課題を解決し、さらにスポーツ先進都市として、世界から注目をされるスポーツ先進都市としてイメージあるいはブランド力を高めていく、その結果選ばれる都市になっていくということを目的とするものであります。

次に、構想に係る基本理念といたしまして、さいたま市が目指す国際スポーツタウンの姿を短い言葉で申し上げますと、世界が認める「日本一のスポーツ先進都市」ということを国際スポーツタウンを指す言葉として私たちとしては位置づけております。

また、その範囲は特定のエリアだけを指すものではなくて、さいたま市全体をこのスポーツタウンにしていこう、国際スポーツタウンにしていこうという考え方です。市民からトップレベルまでスポーツが大変盛んで、さまざまなスポーツシーンが日常的にあふれるスポーツのまちの姿がそこにある、また本構想はこのベースの部分をもっと発展させて世界が認める都市へ飛躍させるということを狙うものであります。

このことから、目指すべき都市像として4つを挙げております。

（1つ目として）市民からトップレベルまで（多くの）アスリートが集う都市、2つ目としては、国際的スポーツ競技の開催環境を持つ都市、そし

て3つ目として、スポーツ関連イベントを通じてブランド価値を創出する都市、4つ目として、スポーツと地域経済が連携した都市を掲げておりません。

また、実現に向けた基本方針としましては5つ、トップアスリートと市民スポーツの双方を振興していく、それから（価値）向上につながるイベント運営を実現していく、そして3つ目として、スポーツを支える環境を整備をしていく、また4つ目として、現代的なスポーツの基礎を学ぶ機会をつくっていく、そして5つ目としては、「日本一のスポーツ先進都市 さいたま市」を世界に認知させるということをその基本方針として定めております。

スポーツ先進都市として他の都市をリードする存在であるためには、時代にマッチしたスポーツトレンドを取り入れていく必要があると考え、国際スポーツタウン構想の施策展開に取り入れたいスポーツトレンドを示してございます。

まず、大規模な国際スポーツ競技大会といたしましては、市民参加型の国際的なスポーツ大会として注目をされておりますが・ユーポレートゲームズなどの誘致開催であるとか、あるいは障害者スポーツでは、さいたま市としてもこれまでノーマライゼーションカップということで過去4回開催してきました。こうしたブラインドサッカー、あるいは関東大会などもこれまで実績を上げておりますけれども、車椅子バスケットボールがその候補として挙げられております。

また、ニュースポーツの分野につきましては昨年の8月に世界大会を本市で開催いたしましたけれども、インディアカでありますとか、新しい種目としてオリンピック競技を目指しておりますバスケットボールのスリーバイスリーなどの大会を誘致開催して、従来スポーツに関心が薄かった市民に向けてニュースポーツをアピールして、スポーツ実施率向上にも貢献をしていきたいと考えております。

また、スポーツツーリズムにつきましては、大宮盆栽、また岩槻の人形、鉄道博物館等の市内の観光としてのコンテンツと組み合わせまして、アフタースポーツツアーというものの開発を図ることで有望な観光商材となる可能性がございますので、そういったことにも取り組んでまいりたいと考

えております。

また、キャンプや合宿の誘致ということについては、スポーツ競技大会の誘致とともに国際スポーツタウンを実現する上で大変有望な取組でありまして、またその実現のために、競技施設だけではなくて、クラブハウスであるとか宿泊施設などの機能を持つ、ドイツにたくさんございますが、スポーツシュレ、こういったものを整備していく必要があると考えております。

次に、実現に向けた施策として、2つの柱と3つの視点を設定いたします。まず、2つの柱のうちの一つでございますが、国際的なスポーツイベントの開催等によるシティセールス、そしてもう一つが海外からの来訪者獲得のためのスポーツ環境整備であります。そして、スピーディーな施策展開をするための3つの視点として重点化する施策、それから都市間競争に打ち勝つための施策、また未来への投資としての施策を設けさせていただいております。

この2つの柱と3つの視点をかけ合わせまして、施策の内容を整理したのがこの図になります。まず、国際的なスポーツイベントの開催によるシティセールスという柱では、重点化する施策として現在も行っているような国際的なスポーツ競技大会、イベントを今後も誘致開催し、さらに効果的に情報発信に努め、ブランディングを図っていくということでもあります。

また、都市間競争に打ち勝つための施策といたしましては、国際的なニュースポーツの普及定着と競技大会の誘致開催を行っていくということでもあります。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催の場所でもありますので、こうしたオリンピック・パラリンピックのムーブメントの推進を行って、そのレガシー、オリンピック後にしっかりとそういった施策が残っていく、継承されていくものを構築していくということ意識してやっていくということでもあります。

そして、未来への投資としての施策でありますけれども、国際的な市民参加型の大型スポーツ競技大会、またイベントを誘致開催していくことで考えております。

また、海外からの来訪者獲得のためのスポーツ環境整備という柱では、

重点化する施策として、まず国際的なスポーツ競技大会を受け入れていくためには、その受け入れを可能とするスポーツボランティア、これはかつてロッテルダムトップスポーツ、あるいはインディアナポリスへ行ったときに（インディアナ・スポーツコーポレーション）というスポーツコミッションの方々と会いました。そのときにスポーツコミッションの大変重要なセールスポイント、重要なことは何かというと、スポーツボランティアというふうにおっしゃっていました。そういう意味では、スポーツボランティアを充実させることがこれから他の、今たくさんスポーツコミッションができてきておりますけれども、そういったところにより優位性を持つ一つのポイントであると思っております。

また、2つ目、都市間競争に打ち勝つための施策として、さいたまスポーツコミッションの拡充強化を図っていくこととなります。これらを組織立ったものにし、人材の育成等々、また民間のさまざまな知恵、ノウハウも活用しながら、このさいたまスポーツコミッションを拡充強化していくということが求められます。

そして、3番目として、未来への投資としての施策ということでは、スポーツ拠点となる、先ほど言いましたスポーツシューレ、こういったものを整備することも必要になる。それから、もう一つはMICEと連携した都市基盤（整備とともに）国際的なスポーツカンファレンス等の誘致、開催を行っていくということを重点的な目標として進めております。

さいたま市成長戦略は、平成34年度を目標年度といたしておりますけれども、この国際スポーツタウンはその後も続く取組であり、本構想で検討された内容は、スポーツを生かし、発展し続けるまちづくりの長期的プランの第一歩になるものと考えております。

本構想の実現に向けて重要なキーワードとなっておりますスポーツコミッションの体制強化、またスポーツシューレの整備については、今後さらに具体化に向けまして取り組んでまいりたいと思います。また、基盤整備として、ホテル等宿泊施設の誘致、またスポーツもできる多目的アリーナの整備については、MICEとの連携を図りながら実現に向けた取組を加速させていきたいと考えております。

本構想に掲げた施策を着実に、戦略的に遂行することによりまして、世界

のスポーツ関係者からも注目をされ、日本一のスポーツ先進都市としての成長の先を見据え、常に他の都市をリードしていく存在であり続けると考えております。

その「スポーツのまち さいたま」の中で、「日本一スポーツで笑顔あふれるまち」というキャッチフレーズをつけておりますが、私たちとしては日本一スポーツで笑顔あふれる、そういったさいたま市をつくっていくことで、これからの高齢化に向けて、健康で長生きができるまち、あるいはコミュニティの再生、あるいは子供たちのしっかりとした教育、あるいは都市のブランド力の向上、地域経済の活性化、観光などに積極的に生かしていく、そしてこういった国際スポーツタウンをしっかりと作り上げていきたいと考えております。

私からは以上でございます。

○ 共同通信

ありがとうございました。

それでは、まず市長からの説明内容について幹事社から質問させていただきます。

議題 1 に関する質問

まず、スポーツフェスティバルのほうなのですけれども、期間中どれぐらいの参加者を見込んでいますでしょうか。

○ 市長

昨年の5月に(株式会社さいたまアリーナ)が15周年記念事業で、2日間スポーツフェスティバルを開催しました。そのときには、約2万人弱の来場者があったと聞いておりますけれども、大変なにぎわいをみせたとなっております。

今回はゴールデンウィークの前半ということで、休みということもございます。かつ3日間ということもありますので、昨年以上、3万人あるいはそれを超える方々に来ていただけるのではないかと考えております。

また、オリンピック・パラリンピック(競技大会の時期が)、だんだん近づいてくるというタイミングにもなっておりますので、そういった意味からも昨年以上に来ていただけるのではないかと考えております。

○ 共同通信

ありがとうございます。

議題2に関する質問

あともう一点なんですけれども、国際スポーツタウン構想で「日本一のスポーツ先進都市」を目指すというふうにあります。目指すべき都市像ということで項目を示されていますけれども、もう少し具体的に、どういう状態になれば、さいたま市が日本一の先進都市だというふうに言えるというふうにお考えでしょうか。

○ 市長 この都市像の中では、さらにベースとなるものでスポーツ振興まちづくり計画がございますが、その中では、1つは市民が週1回以上、スポーツの割合を7割にするという、これは日本一の目標でありますけれども、そういったものを掲げています。それだけではなくて、市民からまさにトップクラスの選手までのスポーツ環境をしっかりと整えることによって、いわゆるスポーツを行う、三角形でいうとトップのところから底辺のところまで、それらの施設環境が整って、それが最も進んだ場所がこのさいたま市ということです。そのスポーツをやるための、あるいはスポーツを見るための、あるいはスポーツを支えるための都市基盤あるいは機能が十分整っている都市ということだと思います。

○ 共同通信 もしお考えがあればお聞きしたいんですけれども、現時点で最も進んでいる日本一の先進都市は、例えば何県の何市だとか、そのビジョンというか、モデル像みたいなものはおありなんでしょうか。

○ 市長 今国内では、現時点では、こういう場所が目標というところはありません。いろいろな大会が来る東京という存在はありますけれども、私たちとしては他の都市に負けないぐらいの今現状として、いろいろなことに取り組んでいる地域であると。スポーツを振興する、スポーツをするという場所としてもそれなりの規模がある。また、スポーツを見るという部分でも基盤があると思っておりますが、もう一つ重要なのは世界が認めるという、そういった言葉をあえてつけさせていただいておりますが、私たちが勝手に言うというよりは、世界中からスポーツと言えば日本ではさいたま市です、ねと言われるような、そんな都市を目指していきたいと。

ヨーロッパでは、スポーツ首都という認定制度が（毎年あります。）今、日本の中ではそういった制度があるわけではありませんが、さいたま市が

進めてきたスポーツコミッション、あるいはスポーツツーリズムというような視点では、さいたま市はかなり先頭を走っているという自負もございます。ただ世界に認められるというところについては、まだまだやはり歴史を積み重ねていく、あるいは実績を積み上げていくということが必要だろうと思っておりますし、まだ合宿をしたり、外部の方々がさいたま市に来てスポーツをするという部分の環境では、まだまだもう少し強化をしていく部分があると思っております。

○ 共同通信 ほかに各社から市長の説明内容について質問があればお願いします。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。

国際スポーツタウン構想についてお伺いしたいんですけれども、施策の内容の中で、環境整備に向けた施策ということで幾つか挙げられていたんですけれども、この中でスポーツシューレの設置ですとか、あとスポーツのできる多目的アリーナの整備ということが挙げられているんですけれども、これは具体的にどういったものをどちらにつくるとか、そういった構想ですとか場所ですとか、そういうお考えはあるんでしょうか。

○ 市 長 どこの場所にとということについては、まだ特定をしているものではありませんけれども、今後その2つの施策については、より一層具体的に検討していきたいと思っております。

まず、スポーツシューレについては、いわゆるスポーツ競技をするグラウンドであるとか体育館があって、かつ宿泊機能があるというような、こういった場所をつくっていく必要があると思っております。あるいはクラブハウスというものです。そういったものを意識して、両方を一遍につくるというよりは、エリアで見ますとグラウンドであるとか、あるいは体育館が集積しているエリアなどもありますので、そこにそういったクラブハウス、宿泊施設などを近くに整備していくという、そういったやり方などもあると思っております。いずれにいたしましてもこの宿泊施設とクラブハウスみたいなものがセットに活用できるものをさいたま市内の中で検討していきたいと思っております。

また、多目的施設のほうですが、これらについては今スマートベニューということで、比較的郊外というよりは駅の周辺の中で、比較的交通の利便性の高いところに商業施設であるとか、あるいは都市機能が充実してい

る場所の中に整備をして、より一層集客力を高める、あるいはまちの一つの活性化のシンボルにしていくという取組が提唱されているところでもあり、さいたま市としてもこれまではやや郊外であったりするものが多かったのですけれども、やはりさいたまスーパーアリーナの成功などを見ている、駅周辺の交通の利便性の非常に高いところの中で、こういった特に見るスポーツということを重点的に考えながらできるような場所、これらを行えば市単独でというよりは民間の皆さんの力、これは資金もノウハウも含めてですけれども、そういったものを活用してできる方策を今後検討していければと思っております。

○ 埼玉新聞 もう一点なんですけれども、同じくその中で、取り入れたいスポーツトレンドという中に幾つかスポーツが挙げられていまして、この中のブラインドサッカーなんですけれども、さいたま市ではノーマライゼーションカップ主催されて、ブラインドサッカーの先進地というふうなイメージもだんだん定着しつつあるかと思うんですけれども、ちょっとお話を聞くと、割と専用のサッカー場がないというので、割と問題を抱えていらっしゃるというお声も聞くんですけれども、例えばこういう取り入れたいスポーツトレンドというふうにここに挙げられているということは、その専用の受け入れ施設ですとか、受け入れ体制を整えるという、そういう方向に向かっていくという考え方でよろしいのでしょうか。

○ 市長 専用と限定するかどうかは別として、ブラインドサッカーをやりやすい環境づくりをやはりもっと充実させていくことが必要だろうと思っております。私たちもこのブラインドサッカーのいろいろなチームが練習場に困っていたりとか、あるいは試合等をする場所がなかなかないというお話は十分聞いておりますので、そういったブラインドサッカーがしやすい環境をつくっていくということは、当然これらの施策を推進する上で重要な施策の一つということになると思います。

幹事社質問：リオデジャネイロ五輪競泳日本代表に選手された酒井夏海選手への期待と市としての応援について

○ 共同通信 そのほかいかがでしょうか。

それでは、幹事社からの質問に移らせていただきます。今回幹事社から1点お伺いいたします。昨日もお見えになっておりましたが、リオデジャネイロ五輪の競泳日本代表に、中学生では20年ぶりに土合中学校の酒井夏海選手が選出されました。改めまして酒井選手への期待と、現時点で市として応援などの対応について何かお考えがあればお聞かせください。

○ 市 長

まず、昨日お見えいただきましたけれども、今回見事日本代表に選出されました酒井夏海選手、本当におめでとうございます。

皆さんご承知のとおり、昨日酒井選手は私のところにお越しいただきまして、ことしの夏のリオデジャネイロのオリンピックにおきまして(競泳)のメドレーリレーの代表に選ばれたということを報告に来ていただきました。今もお話ありましたけれども中学生のこのオリンピック出場、競泳では20年ぶりということであり、また本市では初の快挙ということで、大変な偉業をしてくれたと思って、さいたま市民の一人としても改めて誇りに思っているところであります。ぜひとも8月のリオデジャネイロオリンピックでは万全のコンディションで臨んで、そしてベストを尽くして頑張っていたいただきたいと思っております。

また、質問の市としての応援についてでありますけれども、現在本庁舎あるいは各区役所への激励の横断幕の掲出を検討しているところであります。また酒井選手の地元であります桜区のほうでは、区報での応援記事を掲載予定でございます。また、世界へ挑む夏海さんを区を挙げて一緒に応援していきたいと考えているということでもあります。

また、教育委員会におきましても学校と協力しながら、できる限りの応援をしていっていただきたいと考えているところであります。いずれにしてもまだ具体的にどういう形で応援するかというところまでは決めておりませんが、やはり20年ぶりの快挙ということもありますし、本当に現役の中学生、14歳の選手がオリンピックで頑張るというその環境づくり、できるだけみんなで応援できるような環境づくりを私たちとしてもしっかりとしていきたいと思っております。

○ 共同通信

ありがとうございます。

幹事社からの質問に関連して、何か質問があればお願いします。よろしいでしょうか。

それでは、ほかに何か各社から質問があればよろしくお願ひいたします。

その他：国政選挙について

- 朝日新聞 朝日新聞です。よろしくお願ひします。
- 1点なのですが、国政選挙についてなのですが、衆参同日選挙の流れが加速していた中で熊本地震が起きました。熊本地震の復興を優先すべきじゃないかというような意見が政財界から出ています。さいたま市長の立場で、それダブル選挙にすべきかどうかをもちろん決めるということではないことは重々承知の上でお伺ひしたいんですが、率直に市長としてはダブル選挙をすべきかすべきでないか、いかがでしょうか。
- 市長 現時点での印象で申し上げますと、やはりまだ余震が継続をしているというような状況もございますし、まだ救助からだんだん立ち上がっていくという、その過程にまだ十分入っていないという状況もあろうかと思っております。ですから、まずはやはり復興に向けて国を挙げて全力で支援に取り組んでいくということが第一義ではないかと考えております。また、それが順調にいった場合にはいろいろな選択肢もあるかもしれませんが、まずはしっかり国を挙げて支援していくということが日本全体としても、また私たち国民としてもやっていくべきことと思っております。

その他：交通政策審議会の答申について

- 日本経済新聞 日本経済新聞と申します。
- 昨日の交通政策審議会小委員会の答申について幾つかお伺ひしたいんですけれども、まず地下鉄7号線の延伸について、2012年の段階では5年後の事業着手を目指すというご発言をされていましたがけれども、この方針は今どうなっているのかと。変わっているのであれば、その事業着手する判断というのはいつごろになるのかというのをお聞かせください。
- 市長 地下鉄7号線の延伸事業については平成24年10月に、延伸については検討の段階から実行の段階に移行したと私たちは申し上げました。そして、おおむね5年後の事業着手を目標に、延伸実現に向けて取り組んでまいりますとお答えをしましたがけれども、現時点もそれらは基本的には変わっておりません。延伸の実現に向けてしっかりと取り組んでいき、そして

進めていくということでもあります。

ただ、そのためには今後も課題等が指摘されておりますので、その課題解決に向けてしっかりと取り組んでいくと。浦和美園地区、また岩槻駅周辺地区の両副都心をつなぐ東部地域のまちづくりをさらに充実していく、強化をしていくということが必要であろうと思っております。私どもとしてはもともとあの地区を、やはり副都心を結び、またさいたま市の発展にも大変重要なエリアであるとして取り組んでまいりましたので、今後もそういった東部地域のまちづくりを一層強化して、できるだけ早い段階でこの地下鉄7号線の事業着手に取り組めるように引き続き努力をしていきたいと考えております。

○日本経済新聞 その課題の部分になると思えますけれども、答申でも採算性に課題があるという指摘があります。それで、今まずはまちづくりをというところですけれども、どっちが先かというところがあると思うんですけど、延伸の環境というんですか、いわゆる人が利用してくれるから通すんだという考え方もあるでしょうし、逆につくっておいて、そこに引っ張ってくるというものもあると思うんですけども、現時点で延伸をするための環境というのは整っていらっしゃると思えますか。それとも、今ありましたけれども、そのためにより強化していく部分というのはどういうところにあると思えますか。

○市長 現時点としては、まだ課題があるだろうと思っております。それは、B/C（ビーバイシー）についても1を下回る状況があり、また事業採算性についてもまだ40年を超える期間がかかるということになっておりますので、私たちとしてはこのまちづくりをしていくその一つのビジョン、目標、計画が、やはりそれを超えるものであることが前提として必要と思っております。

また、単なる絵に描いた餅であってもいけないと思っておりますので、それらを十分に踏まえながら、今後この地下鉄7号線は私たちにとっても、東部地域のまちづくりにとってもそうですし、災害時の交通あるいはさいたま市全体のそれぞれの地域をつないでいく大変重要な役割をしていく路線であると考えておりますので、その中でしっかりとそういった課題をクリアしていくための、完全にそれがクリアでき終わってからというよりは、

その目安がきっちりと立つかどうかということが大変重要だと思っておりますので、それに向けてしっかりと努力をしていきたいと思っております。

○日本経済新聞　あともう一つなんですけれども、ちょっと大宮というのが絡むので、あれですけれども、当市で言うところのいうと大宮駅の質的進化というんですか、それとあと東西交通の大宮ルートも盛り込まれていますけれども、このあたりはどのように進めていかれるのか。それぞれ課題はどこにあるのかというのを教えていただけますか。

○市　長　今回交通政策審議会の中で、1つは初めて大宮駅の機能の高度化ということについて答申をいただきました。昨年北陸新幹線が開通して、上野東京ラインが開通して、そしてことしまた北海道新幹線が開通するというところで、首都圏の中でも、また首都圏と東日本を結ぶという意味でも大変大きな役割を大宮駅が果たすということを改めて国のレベルでもご理解、またご認識をいただいたと考えておりました、そのためにはまだまだ駅の機能として高めていくことが必要であろうと。それは、東武線との乗りかえの問題であったり、あるいはまさに大宮駅から北海道、東北、上越、信越、北陸といろいろな地域につながる、あるいはそのちょうど岐路になっているところでもありますから、それにふさわしい駅の機能、あるいは周辺のまちづくりとの連携というようなことも含めて、こういったものを今回の答申でもまた一層ご理解をいただいて答申の中に位置づけていただいたと認識をしております。

これは、合わせてほぼ同時期に首都圏広域地方計画でも、そういった西日本の玄関口が品川駅、そして、東日本の玄関口が大宮駅ということで、これも明確に位置づけていただきましたので、これまで私たちが言ってきたことが、ある意味では国レベルでもご認識をいただき、その重要性ということを理解していただいた、またそのための環境をつくっていただいたということですから、私たちもスピード感を持って、ただ、これは駅の問題については、鉄道事業者との関係ということも非常に大きくございますので、これからも、昨年さいたま市と埼玉県とJR東日本と、また東武鉄道と4者でいろいろ協議を進めてきたという経緯もございます。今年度は、さらにその4者との協議を進めていきながら、具体的に私たちが申し上げてきました大宮駅グランドセントラルステーション化構想を、もう少し皆

さんがわかりやすいものにしていくことが必要であろうと思っておりますし、特に首都圏広域地方計画の中では、これからの運命の10年プロジェクトという位置づけの中で位置づけていただいているという認識しておりますので、それなりのスピード感を持って、またタイムリーに私たちが今検討している、あるいは計画をしているプロジェクトを推進していくということが必要だろうと認識をしております。

それから、もう一つはLRTについても、これらについてもやはり大宮駅と、副都心であります浦和美園とのアクセスが、現状ではしにくいという環境がございます。また、周辺の地域でもいろいろ人口が張りついてきているという状況もございますので、そういったことも踏まえながら、前回のものよりは少し一歩前進をして、私たちがさらにより具体的に検討していく、そういった時期に入ってきていると考えているところです。

○日本経済新聞 LRTの形状、BRTにするとか、いわゆる採算性のところというのが地下鉄7号線と同様にあれですけれども、より安価な方法で、逆に言うalmazバス路線を走らせるとか、そういうところもあると思うのですけれども、どのように進めていくとか具体的なものというのがありますか。

○市長 基本的には、今回交通政策審議会の中でご答申いただいたもの、あるいは私どもが要望したものは、LRTという形で実現をしたいというものでありますけれども、ただ、これを実現するまでには少し時間もかかる可能性がありますので、その中で、そのLRTをつくっていくということを前提にして、一時的にBRTで検証していくとか、そういうことは全くあり得ない話ではないのではないかと考えておりますが、基本はLRTということとっております。

○日本経済新聞 ありがとうございます。

その他：熊本地震への対応について

○テレビ埼玉 テレビ埼玉と申します。

熊本地震の関係なんですけれども、冒頭のお話の中で職員派遣の準備をされているというお話ありましたけれども、具体的に何人ぐらいで、いつごろからかというところと、あとそのほかに要請が来ているものがあるのかとか、それ以外に市長のほうで今後やっていきたい支援などがありまし

たら具体的に教えてください。

○ 市 長

現時点では、4月27日から5月18日まで、28人を一組にしまして7グループをつくって、4日置きに交代するような形で、特に熊本市中央区の避難場所に派遣をしたいと思っております。と申しますのも、今やはりマスコミの皆さん等からも報道されているように、なかなか救援物資が皆さんに行き渡らないということがございます。やはり人手がかなり不足しているということもございますし、またきょうからはボランティアの募集なども始まっているようではありますが、このボランティアの皆さんをしっかりとコーディネートしていくという役割も、誰かが負っていかねばいけないと思っております。そういう役割をさいたま市、そして政令指定都市市長会のいろいろな都市が協力をしてやっていこうということで決めさせていただいておりますので、まずはそこをしっかりとやっていくということになろうかと思っております。

それから、今後のことについてですが、これ大規模な災害が起こってから救助、救援が必要な時期と、それから復旧の時期と、それから復興の時期と、それぞれ段階があろうかと思っております。ですので、私たちとしてはそれぞれ段階ごとに、できるだけ現地の、地元のニーズに沿う形で対応していきたいと思っております。

また、ちょうど東日本大震災が起こったときに、政令指定都市市長会で大規模災害が起きたときに、どのように政令指定都市として行動していくか、あるいは支援をしていくかということを経年々わたって協議をしてきました。今回は、そのスキームの中でやらせていただいているわけですが、そういったこれまで検討してきたことを十分踏まえながらやっていきたいと思っておりますし、またいずれにしても現地のいろいろな状況、こういったものを十分踏まえて対応していくことが必要かと思っておりますので、現地の熊本市、またそれを今支えて、幹事市がございまして、その皆さん、あるいは政令指定都市の皆さんともしっかりと連携をして、必要なタイミングに必要な応援をできる限りしていくというのがさいたま市のスタンスであります。

○ 埼玉新聞

地震に関連してなんですけれども、さいたま市のほうから物資をお送りしたり、人を派遣されるということなんですけれども、逆にさいたま市が

もし震災の被災地と申しますか、になった場合に、市としての備蓄の状況ですとか、食料ですとか水ですとか、そのあたりの備蓄の状況については何日間ぐらいですとか、そのどういった備蓄の状況になっておりますでしょうか。

○ 市長 基本的には、3日間の備蓄をしていると聞いております。それを、県と市で分担をしながら確保しているということでもあります。

今後その備蓄されるものについては、東日本大震災あるいは阪神・淡路大震災で、やはり弱者の方々にもきめ細やかなものについて備蓄をしていくことが必要だと言われておりますので、随時見直しをしながら行わせていただいているというところでございます。

○ 埼玉新聞 もう一点なんですけれども、この熊本の震災を、熊本というか九州の震災を受けて、何か職員さんですとか、あるいは自治会ですとか、市民の皆様に対してご協力ですとか、備えを呼びかけるようなことはありますでしょうか。

○ 市長 現時点では、今救助の段階でありますので、まず義援金の募集については各公共施設で募金箱を設置して、復興協力の呼びかけは行わせていただいております。

また、今後この大規模災害についてどのような形で対応していくかということについては、これまでの大規模災害、そして今回の大規模災害、これらを十分いろいろな形で検証して、そしてさいたま市が足りない部分、特に行政がやるところと共助、あるいは自助としてやっていただくべきところといろいろあると思いますけれども、それらをきちっと整理をして、そしてその充実へのご協力をお願いしていくということだろうと思います。

今市民の皆さんは、この熊本の大地震の前から、東日本大震災以来、ものすごく意識を高く持ってくださいています。ですから、地域の自主防災組織の防災訓練を含めて極めて現実的に、またいろいろな工夫をされながら取り組んでくれております。

また、今さいたま市では防災カルテをつくって、中学校区ごとにそれぞれの地域の特性に合わせて、こういう課題があるということをお示しをしています。それらに向けて、地域の中でもいろいろな具体的な課題を検討していただき、またさいたま市としても、行政としてやるべきことをしつ

かりとやっていくという形で進めさせていただいております。いずれにいたしましてもこれまで検証してきた課題だけではなくて、今回また熊本の地震で起こっているさまざまな事象、特に現時点で言えばやはり救援物資をどういうふうに避難場所にしっかりとつなげていくかということなども、現在も取り組んでおりますけれども、そういったことなども含めて、改めて私たち自身についての検証もしていかなければいけないと思っております。

その他：北区本郷町で起きた逃走事件について

- 埼玉新聞 もう一点お願いいたします。ちょっと話は、話題は変わるんですけども、今月の19日に、さいたま市北区本郷町で警察の家宅捜索を受けている最中に、立ち会っていた男が逃げて、県警からの要請で、さいたま市が防災行政無線で住民に対して注意を呼びかける事件がありました。まず、真っ先によぎったのは熊谷の事件かなと思うんですが、まずこの件につきまして市長の受けとめをお願いいたします。
- 市 長 今回警察からの要請もございまして、こういった防災無線で放送し、市民の皆さん、住民の皆さんに注意を呼びかける、喚起をするということをやらせていただきました。これらは、今お話がありましたように熊谷での事件を踏まえて、現在埼玉県警察とさいたま市とでいろいろ協議をしてみました。そして、この防災無線の活用の仕方、その基準についてもいろいろご議論をさせていただいて、おおむね合意をするべきところまで来ていると思っておりますけれども、それに基づいて対応させていただいたということでありまして、こういったことが余り何度もあってももちろん困るわけでありまして、ただ、やはり注意喚起を呼びかける、そしてまたその結果をしっかりと呼びかけた地域の皆さんにお返りする、こういったことを含めてきっちりルール化をして、市民の安全に寄与できるようにしっかりと対応していくということが必要と思っております。
- 埼玉新聞 それに関してなんですけれども、ちょっと細かい話なんですけれども、男が逃げたのが7時55分で、ちょっとお伺いしたところ、市に対して防災行政無線の利用の依頼があったのが10時50分、実際に放送されたのが11時22分ということで、県警からの依頼を受けて市の対応は非常に

速やかだったと思うんですが、逆に言うと、逃走してから3時間も事件を起こすかもしれない状況が続いていた。県警からの連絡が3時間、非常に遅いとするか早いとするか、余りいい状況ではなかったように思えるのですけれども、これにつきましては市長から、市民の安全を守る立場から埼玉県警に対して何か要望することですとか、お考えになることはございませんでしょうか。

- 市長 現時点で、今回の対応が早かったか遅かったかということについて十分検証が行われていませんので、申し上げることはできませんけれども、いずれにしても捜査そのものとの関連性もございますので、どのタイミングでこういった放送をすることが一番適切なのかということについては、なかなか捜査との関連もございますので、私どものほうからどういったタイミングがいいということをちょっと言いにくいところもございますけれども。ただ、いずれにしましても、今回の事件の時系列の検証なども含めてしていただきながら、どういうタイミングでやっていただくのがいいのかということについては、改めて双方で認識をしたいと思います。よろしいでしょうか。
- 共同通信

その他：さいたま国際マラソンについて

- 読売新聞 読売新聞と申します。
さいたま国際マラソンについて伺いたいですけれども、先日の組織委員会で、制限時間の延長ですとか定員の拡大など、新しい点が発表されたと思うんですけれども、改めてことしの大会に向けてどういう大会にしたか、ちょっと意気込みというか、目標というか、伺いたいですけれども。
- 市長 先ほども、国際スポーツタウン構想で発表させていただきましたけれども、さいたま市は今スポーツを活用して、地域の発展であるとか、あるいはさいたま市が、今現在もそうですけれども、今後抱えるであろう課題を解決する一つの大きな力として、活用していきたいと考えております。
その中で、市民にとって、マラソンであるとか、ウォーキングであるとか、自転車は比較的一番やりやすい、誰でもできるスポーツであると認識しております。その中でこのスポーツをしていただく一つのきっかけに

なる、そういうスポーツがこのマラソンであり、ウォーキングであり、自転車であると私たちは考えております。

その中で、さいたまシティマラソンが行われてきまして、多くの皆さんが将来フルマラソンにしてほしいという、そういった願いもありました。私たちとしてはフルマラソン化をして、そしてより多くの皆さんが参加をして、新たにマラソンなどをやっていただく、あるいはスポーツをしていただく方を増やしていく、そしてそういった市民にとって目標であり、あるいは夢であり、あるいは誇りであり、またもう一方で少し努力をすれば出られる大会であり、またその目標がかなえられる、そういう大会を目指して、このさいたま国際マラソンをやる前からいろいろ検討し、準備をしてきたところでもあります。昨年こうしたさいたま国際マラソンという女子のエリートマラソンと、まさにセットでこのフルマラソンの大会ができたということは、私どもにとって大変大きな一歩だったと思います。しかし、残念ながら1回目は4時間という時間制限で、なかなか一般の市民ランナーとしては少しハードルが高い大会になってしまったと思っております。私たちが目指してきた大会とすると、まさに2回目の今回が最もそれに近い大会になるのではないかという期待もありますし、私たちとしては本格的にスタートする、まさに第1回目という思いで、この2回目のさいたま国際マラソンを捉えていきたいと思っております。できるだけ多くの皆さんが参加をしていただくチャンスがあり、そしてそれに向かって多くの皆さんがスポーツをやり始め、また今回は出られなかったとしても、将来この大会に出たいと思って練習をしてくれるような、そういう大会にしていきたい。そして、健康で元気なまちさいたま市をつくりたいと思っております。

- 読売新聞 済みません。多くの市民の目標となる大会にしたいということですがけれども、先日の組織委員会でも、市長みずから出たいということをおっしゃっていましたが、ここで決意表明みたいなものをしていただければ。
- 市長 ずっと今お話ししたような思いで準備を進めてきましたので、私自身余りマラソンが得意なわけでもありませんし、これまでフルマラソンの経験も一度もありませんし、ハーフマラソンはシティマラソンで何度か走らせていただきましたけれども、でもこのさいたま国際マラソンというマラソ

ン大会は、かなり募集も増やさせていただき、また制限時間6時間という大会になりましたので、より多くの市民の皆さんが出やすい、場合によっては私でも少し頑張れば出られる、そういう大会になってきたと思っていますので、出るにはもう少ししっかりと練習もしたり、準備もしなければいけないと思いますけれども、できれば市民の皆さんと一緒にこのフルマラソンを走り、そして完走したいと思っておりますので、それに向けて準備をしていければと思っています。

○ 読売新聞 じゃ、準備をして出たいということによろしいですか、目標というのは何か設定とかは。

○ 市 長 目標は、やっぱり完走ですよ。ハーフマラソンは何度か走らせていただきましたけれども、それも制限時間本当にぎりぎりで入ってきましたので、時間的な速さというのは余り望むべくもありませんけれども、ただ42.195キロという長さをしっかり走り切ることが重要だと思っていますし、30キロの壁というのがあるともフルマラソンを走られた方はよくおっしゃいますので、その大きな壁を乗り越えて、市民の皆さんと完走した喜び、達成感みたいのをみんなで分かち合いたいと思います。

○ 読売新聞 大変お忙しい中準備をされるということだと思えますけれども、どういった今されていることが、練習があるのかということと、あとこれからされたいメニューとかあれば。

○ 市 長 そういうふうにならなくて思っていたものですから、ちょうど1月から、体重も少し重かったものですから今落として、1月元旦に83キロだった体重が、今75キロちょっとまで減量しました。もう少し減量しないとだめかな、要するに42.195キロを完走するには、足への負担、膝への負担などを考えるともう少し減量しつつ、今休日は、仕事が終わってから夜7キロぐらいは走ったりしています。ですから、週に今2回から3回ぐらい練習しておりますけれども、完走するにはもう少し頑張らないと多分だめだろうと思っていますので、マラソンのそういった専門的な知識のある方々にご指導いただきながら何とか完走できるように。そんなに甘いものではないとも思っておりますので、しっかりと練習をして、そしてみんなと一緒に走れるだけの力をそれなりにつけて参加ができればと思っています。

- 共同通信 よろしいでしょうか。
 それでは、ありがとうございました。記者からの質問を終わらせていただきます。
- 進 行 以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。
 次回の開催は5月9日月曜日、1時半からを予定しておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

午後2時38分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）とし、下線を付しています。